

(様式1)

## 平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 079	提案機関名 神奈川県農協中央会
<b>要望問題名</b> 直売所での販売を目的とした特産品の開発と栽培技術の確立	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 県内農産物の販売において、今や直売は一つの柱となっており、農地保全・地産地消・有利販売などの面で大きな役割を果たしている。 しかし、固定客を確保するためには、スーパーなどの量販店との違いを打ち出す必要があり、直売所でなければ入手できない品物を揃えるような戦略も求められている。 このため、地方野菜や大豆の「津久井在来」のような地域で古くから作られてきた作物の掘り起こしとともに、その安定した栽培に向けた技術の確立を願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術所    ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 野菜類に新品種育成、優良種苗の特性検定試験、野菜類における安定生産技術の開発		
対応の内容等	ご指摘のとおり、地産地消の流れのなかで、「津久井在来」をはじめ、「弥一」、「相模半白」等地方野菜及び以前栽培されていた品種を核として生産振興を図る動きがみられるようになりました。当所では、上記3品種を含め、育成品種の実種及び育種素材として収集した遺伝資源をこれまで維持増殖してきました。今後も、地産地消への活用の点から、遺伝資源の維持増殖を継続するとともに、種苗の更新時にそれらの特性を再度評価します。その結果、有用形質を有する半面、栽培特性上の課題が存在する場合には、栽培技術、品種改良の両面から改善策を検討します。 他方、地方野菜の掘り起こしについては、生産者の高齢化が進む中、重要な時期にあるものと考えます。まず情報収集から始めますので、農協経由でお持ちの情報がございましたら提供をお願いします。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内    ④5～10年以内		